

会長	副会長	副会長	専務理事	担当理事	係

健 第 1660 号
令和 2 年 3 月 19 日

(公社) 岡山県医師会 会長
(一社) 岡山県病院協会 会長 殿

岡山県保健福祉部健康推進課長
(公 印 省 略)

H I V 曝露発生時の予防内服マニュアルについて (通知)

本県のエイズ対策の推進につきまして、平素から格別の御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、別添のとおり H I V 曝露発生時の予防内服マニュアルを策定いたしましたので、貴団体会員への周知につきまして御協力をお願いいたします。

なお、当マニュアルにつきましては、各エイズ治療拠点病院へ周知するとともに、県健康推進課ホームページへも掲載する予定です。



岡山県健康推進課感染症対策班

担当：春田、石田

〒700-8570 岡山市北区内山下 2 丁目 4 - 6

TEL : 086-226-7331

FAX : 086-225-7283

E-MAIL : yoshio_haruta@pref.okayama.lg.jp

HIV曝露発生時の予防内服マニュアル

※別紙「HIV曝露発生時の予防内服フローチャート」を参照してください

1 事故の発生した一般医療機関での対応

(1) 曝露事故発生

曝露事故とは、針刺し事故や鋭利な医療器具による切創等、皮内への HIV 汚染血液の曝露及び、粘膜や傷のある皮膚への血液等感染性体液の曝露をさす。

(2) 応急処置

曝露事故が発生した場合は、血液又は体液に曝露された創部又は皮膚を、石鹸と流水によって十分に洗浄する。

(3) 医療事故担当医に報告

曝露者は、事故の発生時刻・状況・程度・事故の原因となった患者の症状等を、直ちに院内の医療事故担当医に報告する。

(4) 「HIV 陽性血液」及び「陽性が強く疑われる血液」

陽性が強く疑われる血液とは、HIV 抗体検査の結果は不明だが、ニューモシスティス肺炎・クリプトコッカス髄膜炎等の症状があり、HIV陽性であることが推定できる血液をさす。

(5) 妊娠の有無確認

妊娠の有無を確認し、可能な場合は、妊娠反応検査を実施する。

(6) インフォームドコンセント

医療事故担当医は、事故の状況を確認し、4ページ「抗 HIV 薬予防服用説明書」により、予防服用の効果について説明する。

曝露者は、予防服用の利益と不利益を考慮して、服用を開始するかどうか自己決定する。その際、担当医は、曝露者のプライバシー保護について十分に留意する必要がある。

なお、院内での感染報告経路については、①服薬開始の迅速性、②プライバシーの保護、を考慮し、可能な範囲で短縮するべきである。

診療所の医師等で、曝露者が医療事故担当医を兼ねている場合などは、自身で判断する。

(7) 同意書・依頼書作成

曝露者が予防服用を希望する場合は、別紙「抗 HIV 薬予防服用同意書」に曝露者自身が署名する。

予防投与を依頼する場合は、医療事故担当医は、別紙「抗 HIV 予防投与依頼書」を記載し、署名する。

(8) エイズ治療拠点病院へ事前電話連絡

エイズ治療拠点病院(以下、「拠点病院」という。)に予防投与を依頼する場合は、別紙「岡山県エイズ治療拠点病院一覧」により、必ず事前に拠点病院の担当者に電話連絡する。

(9) エイズ治療拠点病院に受診、薬剤受領・服用

事故後、できるだけ早く(遅くとも72時間以内に)服用開始するため、拠点病院を緊急受診した場合は、当該病院に「同意書および依頼書」を提出して薬剤を受領後、直ちに第1回目の服用を行う。

(10) その他

原因となった患者の抗体検査が未実施の場合は、必ず患者の同意を得た上で、抗体検査(迅速検査など)を実施する。

※原因となった患者への HIV 抗体検査の同意を得る場合に最低限伝えるべき内容

(注) プライバシーが守れる環境で告げる。

「針刺し事故がおきましたので、HIV 抗体検査をさせていただきます。結果は判り次第お伝えします。

(スクリーニング検査を行う場合: 抗体検査には偽陽性の場合もあり、確定診断ができるまでは時間がかかります。)

万が一、HIV に感染されている場合でも現在は良い治療法や社会の支援制度があるので心配いりません。」

2 エイズ治療拠点病院での対応

(1) 事前準備

電話で緊急の予防投与の依頼を受けた拠点病院は、事故後できるだけ早く1回目の服用が可能となるよう、直ちに診療及び薬剤の準備をする。

(2) 緊急診療・薬剤処方

拠点病院の担当医は、「同意書および依頼書」に記載されている曝露者の HIV 抗体・HBs 抗原・HB ワクチン接種の有無を確認後、自院で扱う予防薬の内服や副作用について説明する。曝露者の HIV 検査が未実施あるいは不明の場合は、当該検査を実施した後に上記説明を行う。また、必要に応じて HBs 抗原検査等を行う。

初回の予防服用については、説明を受けて曝露者本人が決定する。拠点病院では、曝露者から「同意書および依頼書」を受領する。

服用開始前には、活動性 B 型肝炎、腎機能低下、糖尿病、妊娠の有無などを確認する。また、常用薬がある場合には、相互作用にも注意する。

(3) 診療の取扱い

原則として、一般外来患者と同様にカルテを作成し、処方せんの発行により予防薬を投与する。

(4) その他

曝露事故の発生した一般医療機関で妊娠反応検査が実施できず、曝露者から、妊娠反応検査の依頼があった時は、拠点病院で検査を実施する。

「針刺し事故に係るエイズ予防薬使用通報票」を、岡山県に提出する。

3 服用継続の適否

曝露後予防の服用については、4週間(30日間)の服用が推奨されているが、事故後緊急に予防服用をした曝露者は、服用継続の適否について拠点病院医師と相談のうえ決定し、併せて、HIV 検査を実施する。拠点病院医師は、感染の有無について必要な期間評価する。

4 費用負担

抗 HIV 薬の予防服用については、健康保険の給付の対象ではないが、HIV の感染源である HIV 保有者の血液等に業務上接触したことに起因し、感染の危険に対して有効であると認められる場合は労災保険の給付の対象となるので、所管の労働基準監督署に相談すること。

5 抗HIV薬予防服用説明書

次の感染予防のための服薬についての説明文書を良く読み、服薬の意義、注意点等について確認して下さい。(□=チェック欄)

□服薬の意義

針刺し事故などで HIV 汚染血液等に曝露した場合の感染リスクは、B 型・C 型肝炎と比較してかなり低く、B 型肝炎の 1/100、C 型肝炎の 1/10 程度で、針刺し事故においては約 0.3%、粘膜の曝露においては約 0.09%と報告されています。また、感染直後に抗 HIV 薬を服用することで感染を予防することができます。そして、現在行われている抗 HIV 薬による多剤併用療法を行うことで、曝露後の予防効果はさらに高まると考えられています。服薬の意義を理解し、次に進んで下さい。なお、多剤併用療法が行われるようになってからは曝露後の HIV 感染はほとんど報告されていません。

□服薬に当たっての注意点

感染予防の効果をあげるためには、事故後できるだけ早く(遅くとも72時間以内に)予防薬を服用するのが望ましいとされています。予防服用期間については、通常 4 週間(30日間)の継続服用が必要と考えられています。

□妊娠しているあるいは妊娠の可能性がある場合

至急妊娠の有無を調べて下さい。今回の基本治療については、妊娠初期での胎児への安全性は確認されておりません。妊婦の場合、医師と大至急服薬について相談して下さい。

しかし、胎児への HIV 感染予防のために DHHS(アメリカ合衆国保健社会福祉省)ガイドラインで、HIV 抗体陽性の妊婦に対して、抗 HIV 薬内服が推奨されています。妊娠していても抗 HIV 薬の服用は可能ですが、その場合は、服用開始前、服用開始後も拠点病院に受診または相談して下さい。

□B 型肝炎の既往がある場合

抗 HIV 薬は、B 型肝炎の治療薬として使われるものがあります。B 型肝炎の既往がある場合は、エイズ治療拠点病院医師への相談が必要です。

□予防服用される抗 HIV 薬の注意点および副作用

注意点及び副作用は下記の通りです。

①ツルバダ錠(TDF/FTC)1日1回、1回1錠

ツルバダ錠(TDF/FTC)は、テノホビル(TDF)とエムトリシタビン(FTC)の合剤です。食事に関係なく服用できます。

●主な副作用

悪心や下痢、腎障害などがあります。腎機能が著しく低下している場合は、拠点病院専門医に相談してください。

●注意点

抗 B 型肝炎ウイルス効果があります。この薬剤を服用する前には、必ず B 型肝炎の有無を確認することが必要です。B型肝炎に罹患した患者が予防内服を行う場合には、拠点病院専門医と相談する必要があります。

②アイセントレス錠(RAL)1日2回、1回1錠

食事に関係なく服用できます。

●主な副作用

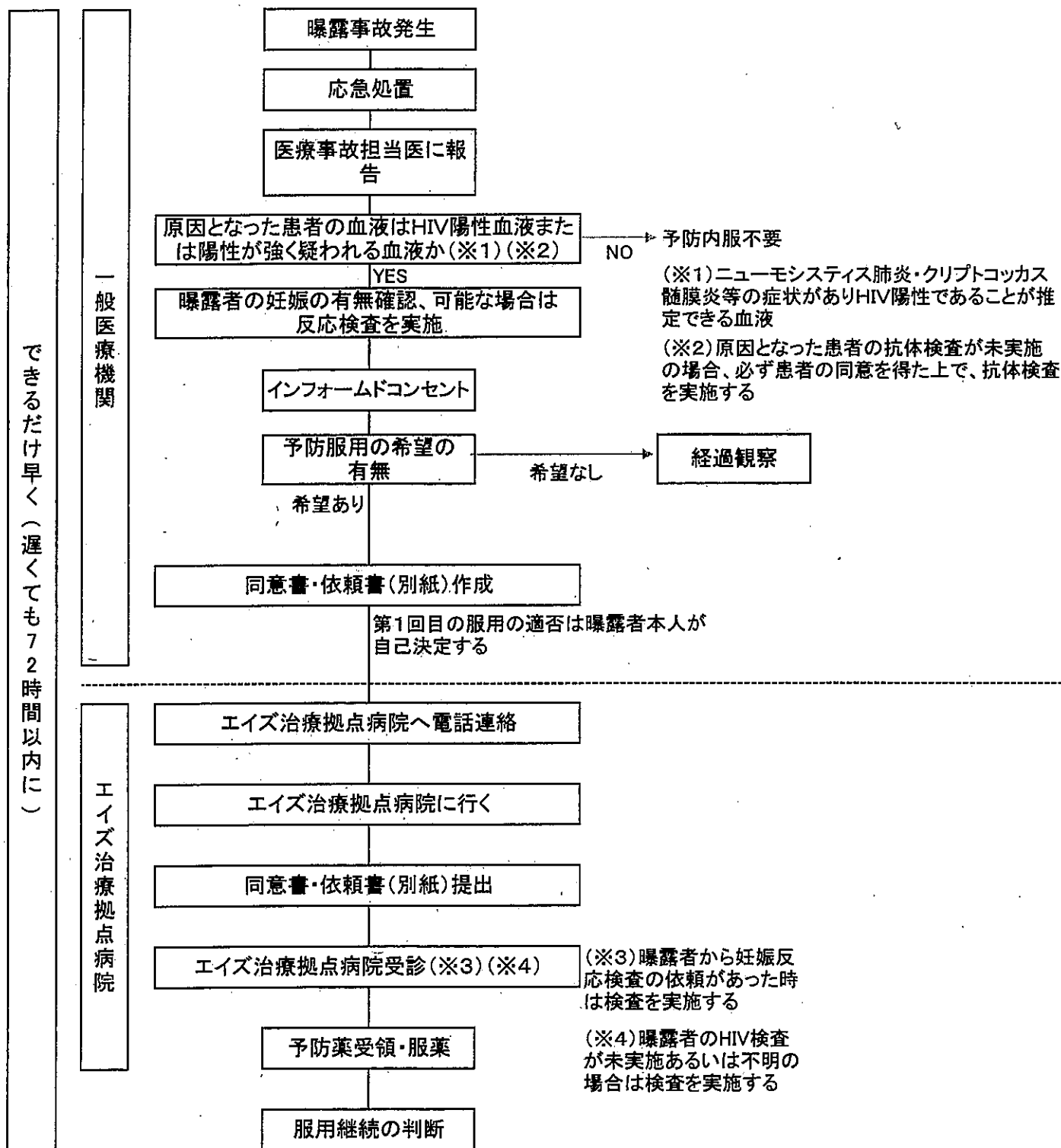
副作用の少ない薬剤です。頭痛などが出る場合がありますが、鎮痛剤で軽減することもあります。

●注意点

アイセントレスはマグネシウム、アルミニウムを含有する制酸剤等と相互作用があり、吸収が低下することがあります。同時に服用することは避けてください。

感染を予防する利益と副作用による不利益を考えた上で、予防服用が必要と判断された場合には、少しでも早く服用を開始することをお勧めします。

HIV曝露発生時の予防内服フローチャート



<取扱注意>

本人控

抗 HIV 薬予防服用同意書

私は、HIV 汚染血液等曝露後の抗 HIV 薬予防服用における利益と不利益について説明を受け、十分に理解しました。

私は、自らの意志により予防服用を希望します。

エイズ治療拠点病院

病院長 殿

年 月 日

署 名

抗 HIV 薬予防投与依頼書

曝 露 者	氏名	生年月日	年 月 日生
	性別 男 ・ 女	妊娠の有無	無 ・ 有 (週)
	現在服用中の薬剤 ()		
	HIV 抗体 (+ - 不明) HBs 抗原 (+ - 不明)		
	HB ワクチン接種 (有 無)		
	その他		
事故状況	発生日時	年 月 日 時	
	発生事故	・ 針刺し ・ 切創 ・ 粘膜汚染 ・ 皮膚汚染	
	原因患者 の病状	HIV 抗体 陽性 ・ 陽性疑	
		HBs 抗原 (+ - 不明)	
	その他		

上記の者は、HIV 感染のおそれがあり、予防服用についての説明に同意があったので、抗 HIV 薬の投与を依頼します。

エイズ治療拠点病院

病院長殿

年 月 日

医療機関所在地

医 療 機 関 名

連 絡 先

担 当 医 署 名

<取扱注意>

医療機関控

抗 HIV 薬予防服用同意書

私は、HIV 汚染血液等曝露後の抗 HIV 薬予防服用における利益と不利益について説明を受け、十分に理解しました。

私は、自らの意志により予防服用を希望します。

エイズ治療拠点病院

病院長 殿

年 月 日

署 名

抗 HIV 薬予防投与依頼書

曝 露 者	氏名	生年月日	年 月 日生
	性別 男 ・ 女	妊娠の有無	無 ・ 有 (週)
	現在服用中の薬剤 ()		
	HIV 抗体 (+ - 不明) HBs 抗原 (+ - 不明)		
	HB ワクチン接種 (有 無)		
	その他		
事故状況	発生日時	年 月 日 時	
	発生事故	・ 針刺し ・ 切創 ・ 粘膜汚染 ・ 皮膚汚染	
	原因患者	HIV 抗体 陽性 ・ 陽性疑	
	の病状	HBs 抗原 (+ - 不明)	
	その他		

上記の者は、HIV 感染のおそれがあり、予防服用についての説明に同意があったので、抗 HIV 薬の投与を依頼します。

エイズ治療拠点病院

病院長殿

年 月 日

医療機関所在地

医 療 機 関 名

連 絡 先

担 当 医 署 名

<取扱注意>

拠点病院控

抗 HIV 薬予防服用同意書

私は、HIV 汚染血液等曝露後の抗 HIV 薬予防服用における利益と不利益について説明を受け、十分に理解しました。

私は、自らの意志により予防服用を希望します。

エイズ治療拠点病院

病院長 殿

年 月 日

署 名

抗 HIV 薬予防投与依頼書

曝 露 者	氏名	生年月日	年 月 日生
	性別 男 ・ 女	妊娠の有無	無 ・ 有 (週)
	現在服用中の薬剤 ()		
	HIV 抗体 (+ - 不明) HBs 抗原 (+ - 不明)		
	HB ワクチン接種 (有 無)		
	その他		
事故状況	発生日時	年 月 日 時	
	発生事故	・ 針刺し ・ 切創 ・ 粘膜汚染 ・ 皮膚汚染	
	原因患者 の病状	HIV 抗体 陽性 ・ 陽性疑	
		HBs 抗原 (+ - 不明)	
	その他		

上記の者は、HIV 感染のおそれがあり、予防服用についての説明に同意があったので、抗 HIV 薬の投与を依頼します。

エイズ治療拠点病院

病院長 殿

年 月 日

医療機関所在地

医 療 機 関 名

連 絡 先

担 当 医 署 名

岡山県エイズ治療拠点病院一覧

病院名	所在地	担当科・連絡先	診療時間外の緊急連絡先
川崎医科大学附属病院	倉敷市松島577	血液内科外来	代表
		086-462-1111	086-462-1111
岡山大学病院	岡山市北区鹿田町2-5-1	薬剤部	代表
		086-223-7151	086-223-7151
国立病院機構岡山医療センター	岡山市北区田益1711-1	血液内科外来	代表
		086-294-9911	086-294-9911
岡山済生会外来センター病院	岡山市北区伊福町1-17-18	薬剤科	代表
		086-252-2211	086-252-2211
岡山赤十字病院	岡山市北区青江2-1-1	薬剤部	薬剤部当直
		086-222-8811	086-222-8811
倉敷中央病院	倉敷市美和1-1-1	外来看護師長	救命救急センター
		086-422-0210	086-422-0210
労働者健康安全機構岡山労災病院	岡山市南区築港緑町1-10-25	薬剤部	薬剤部当直
		086-262-0131	086-262-0131
国立病院機構南岡山医療センター	都窪郡早島町早島4066	診療部	代表
		086-482-1121	086-482-1121
川崎医科大学総合医療センター	岡山市北区中山下2-6-1	薬剤部	救急外来
		086-225-2111	086-225-2111
津山中央病院	津山市川崎1756	薬剤部	代表
		0868-21-8111	0868-21-8111

<注>

診療等の状況により、連絡をしたエイズ治療拠点病院で必ずしも対応できるとは限りません。
その場合は、他のエイズ治療拠点病院にご連絡ください。